

# 企業内導入向け AIエージェント選定レポート

## エグゼクティブサマリー

本調査の結論は、標準採用候補としては **Perplexity Enterprise** を最も推奨する、です。理由は、公開一次資料の厚みが4候補の中で最も高く、**SSO/SCIM、監査ログ、保持期間設定、社内ファイル検索、コネクタのデータフロー、SOC 2 Type II・GDPR・HIPAA・PCI DSS** といった統制要素が、**営業資料だけでなくヘルプセンターや技術文書でも具体的に確認できる**ためです。導入後の説明責任を情報システム部門が果たしやすく、しかも価格も Enterprise Pro が年払いで1席月額34ドル、Enterprise Max が271ドルと公開されています。 <sup>1</sup>

一方で、「**検索・要約・社内知識探索**」よりも、「**実際にツールへログインして操作し、タスクを完遂する**」ことを重視するなら **Manus** が次点です。Manus は Wide Research の並列サブエージェント、隔離された sandbox VM、MCP ベースの連携、API、e-discovery/SIEM 向けの Compliance APIs まで揃えています。ただし、公開一次資料の範囲では Perplexity ほど統制仕様が体系化されておらず、Team/Super Admin の可視性や保持ポリシーの詰めを契約前に確認すべきです。なお、Manus は 2025年末に Meta <sup>2</sup> 参加を公表しており、体制強化の追い風と同時に、製品・契約条件の変化管理も必要です。 <sup>3</sup>

**Felo AI と Genspark は、いずれも魅力はあるものの、標準採用の説明容易性では一段落ちる**というのが妥当です。Felo AI は日本語の公式資料が比較的充実しており、APPI 準拠の日本語エンタープライズポリシー、国内AWS運用の訴求、SSO 対応、公称 99.5% 稼働率など、国内企業向けに相性の良い材料があります。ただし、SOC 2 や詳細な監査ログ、SCIM、保持期間、テナント分離の詳細は公開資料では薄いです。Genspark は機能面では非常に野心的で、Mixture-of-Agents、Cloud Computer、Claw、700+ MCP ツール、Dedicated VPC/Hybrid/On-prem preview まで見せていますが、**同一ベンダーの公開資料間で「SOC 2 Type II/ISO 27001 certified」という記載と、「SOC 2 Type I in progress / ISO 27001 targeting 2026」という記載が共存しており、保持仕様にも整合性の確認が必要**です。したがって、標準採用は **Perplexity**、行動実行型の限定パイロットなら **Manus**、Felo と Genspark は要件特化の追加検討という順番が、最も説明可能性が高いと判断します。 <sup>4</sup>

## 評価フレームと総合結論

今回の4製品は、大きく見ると「**検索・知識探索を中核に据える系**」と「**外部アプリを実際に操作して仕事を完遂する系**」に分かれます。Perplexity と Felo AI は前者寄り、社内文書とWeb情報の統合検索、引用付き要約、レポート生成に強みがあります。Manus と Genspark は後者寄り、ブラウザ操作、外部SaaS連携、サブエージェント分解、Cloud Computer/VM などを使って、より自律的に複数ステップを進める構造です。企業導入の難易度は、**機能の強弱よりも、「どこまで外部にデータが出るか」「どの操作が自動実行されるか」「それを監査できるか」**によって決まります。 <sup>5</sup>

検索・知識探索中心型の典型像は次のとおりです。Perplexity では実際に、**API型コネクタではクエリ時に元システムへ直接問い合わせ、索引型では選択ファイルだけを自社ストレージへ複製して検索精度を上げる**、という二層構造が公開されています。Felo AI はそこまで詳細な図を公開していませんが、Search/Agent/LiveDoc を軸に、**検索→整理→成果物化を一貫させる**構図です。 <sup>6</sup>

flowchart LR

U[利用者] --> I[検索UI / ワークスペース]

```

I --> O[検索・推論オーケストレーション]
O --> W[Web検索 / 外部情報源]
O --> A[API型コネクタ]
O --> X[索引型ナレッジ層]
W --> R[引用付き回答]
A --> R
X --> R
R --> S[Threads / Spaces / レポート]
S --> G[管理・保持・監査]

```

行動実行中心型の典型像は次のとおりです。Manusは**Wide Research**による**並列サブエージェント**と**sandbox VM / Cloud Browser**を軸にし、Gensparkは**Mixture-of-Agents**と**Cloud Computer / Claw**を軸にしています。いずれも、検索精度そのものより、**分解・計画・実行・再試行・成果物化**をどう回すかが本体価値です。企業では、このタイプのほうがROIは大きくなりやすい一方、漏えい・誤実行・過剰権限のリスクも上がります。 <sup>7</sup>

```

flowchart LR
  U[利用者] --> P[エージェントUI / API]
  P --> C[計画・分解コントローラ]
  C --> M[モデル選択 / 推論]
  C --> V[隔離VM / Cloud Computer]
  C --> SA[並列サブエージェント]
  V --> T[外部SaaS / ブラウザ / メール / カレンダー]
  SA --> F[成果物統合]
  T --> F
  M --> F
  F --> H[履歴 / プロジェクト / 監査]

```

この観点で総合判断すると、「まず社内標準として一つ決める」ならPerplexity、「限定部門で強い自動化を試す」ならManusです。Felo AIは**日本語・国内運用ストーリーを重視する企業の局所導入**に向き、Gensparkは**機能は先進的だが、公開ドキュメント整合性の確認が先**という位置づけです。 <sup>8</sup>

## 製品別調査

Manusは、単なるチャットではなく、**調査、Web操作、アプリ生成、スライド生成までend-to-end**で進める**自律エージェント**として設計されています。公開資料では、Free/Pro/Teamでmanus-1.6-lite、manus-1.6、manus-1.6-maxを使い分け、特にWide Researchは「1つの処理系で順に捌く」のではなく、**n件の対象に対してn個の並列サブエージェントを立てるアーキテクチャ**を採ると説明しています。さらにAgent SkillsはProgressive Disclosureでcontext消費を抑え、APIはOpenAI Responses互換の非同期タスクモデルを提供しています。つまりManusの技術的本質は、**大規模コンテキスト勝負ではなく、計画分解と隔離実行環境による“AI workforce”化**にあります。 <sup>9</sup>

```

flowchart LR
  U[利用者] --> I[Manus UI / API]
  I --> C[エージェント制御層]
  C --> W[Wide Research sub-agents]
  C --> S[Sandbox VM / Cloud Browser]
  C --> K[Skills / MCP]

```

```
S --> A[連携アプリ]
W --> R[成果物]
A --> R
K --> R
R --> P[Project / Workspace]
P --> G[共有 / Compliance APIs]
```

データ面では、MCP コネクタが OAuth 2.0 で Gmail、Notion、Google Drive、GitHub などに接続し、Cloud Browser は各ユーザーごとに隔離されたブラウザインスタンスを持ち、パスワードは保存しないとされています。API 側では、事前アップロードしたファイルは48時間で自動削除されます。他方、Team の運用では各メンバーの workspace は独立しつつ、Super Admin は全タスクへアクセス可能で、規制・法務向けには e-discovery、legal hold、SIEM 連携を想定した Compliance APIs が提供されています。セキュリティ認証としては SOC 2 Type 1/Type 2、ISO/IEC 27001:2022、ISO/IEC 27701:2019 が Trust Center と Security ページに掲示されています。 <sup>10</sup>

配備・運用面では、公開一次資料の範囲では基本は SaaS であり、Desktop の “My Computer” はローカル端末上のファイルやアプリへ作用する拡張ですが、企業向けの公開オンプレ版やVPC版は確認できませんでした。Team 価格は1席月額20ドルから、SSO は30席未満だと月額150ドルの追加定額、30席以上で無料です。Help Center と API Docs は整っており、リリース頻度も高く、Meta <sup>2</sup> 参加後も更新は継続しています。総じて、行動実行型エージェントを最初から業務に噛ませたい企業には非常に有力ですが、初期導入では「共有範囲」「管理者可視性」「高リスク操作の禁止範囲」を明文化してから入れるべき製品です。 <sup>11</sup>

Genspark は、検索ツールというより AI workspace / AI employee プラットフォームとして位置づけられています。Business ページでは 70+ AI models including ChatGPT, Claude, and Gemini、Company/Blog では 30+ models の Mixture-of-Agents、150+ tools、20+ datasets、Claw ページでは OpenClaw ベースの Cloud Computer 上で動く “AI employee” と説明されており、機能思想は明確です。さらに Claw は Slack、Teams、LINE、Telegram など複数チャンネルで使え、Research、Slides、Docs、Calendar、Code、Phone call まで含む広範な実行範囲を持ちます。Browser 側でも MCP Store を通じて 700+ のツール連携を打ち出しており、4候補中で最も「何でもやる」方向に振れている製品です。 <sup>12</sup>

```
flowchart LR
  U[利用者] --> G[Workspace / Claw]
  G --> O[Mixture-of-Agents router]
  O --> M[複数LLM]
  O --> T[Tools / Datasets]
  T --> CC[Cloud Computer]
  CC --> X[メッセージング / 外部SaaS]
  M --> Y[成果物]
  X --> Y
  Y --> H[History / AI Drive / logs]
```

データ統制と配備オプションは魅力的ですが、公開ドキュメントの整合性に注意が必要です。Business ページは Zero Training、Zero Data Retention、Complete data isolation、SOC 2 Type II / ISO 27001 certified と明記します。他方、Enterprise Clients Data Security & Privacy Policy では、prompt/attachment は transient storage、LLM call は tenant identifier を除いた最小リクエスト、log は content hash の30日ローリング、しかし user profile / project history / AI Drive は削除されるまで永続保管 + 30日バックアップ と書かれています。さらに同ポリシーでは US West が default residency、Dedicated VPC は有償、Hybrid (Edge Gateway) は限定ベータ、Fully on-prem は private preview としつつ、コンプライアンス欄では SOC 2 Type I in progress、ISO 27001 targeting 2026、We will not

reference a framework as certified until the attestation letter is issued」と記載しています。一方で Trust Center は **SOC 3 report** を公開しており、Business ページも認証取得済みの表現です。したがって、**実態は前進している可能性が高いが、法務・情シスの承認資料としては公開一次資料の不整合が残る**というのが率直な評価です。 <sup>13</sup>

運用面では、Team Plan が **1席月額30ドル、2~150ユーザー、SSO/SAML、usage analytics、connector management** を含みます。Claw は **各ユーザーに separate IP, disk, domain を持つ専用 Cloud Computer** を割り当てると説明しており、Cloud Computer 分離の思想は明快です。ロードマップも 2026年3月の Workspace 3.0、4月の Workspace 4.0 と非常に速い。ただし、その速さ自体が、**製品定義、保持仕様、認証表現、サブプロセッサ開示の安定性を契約前に固定しにくい**という調達リスクでもあります。機能だけなら非常に強いが、**今すぐ全社標準にするには、DPA、データフローダイアグラム、最新監査証跡、保持仕様の確定版をRFI/RFPで回収すべき製品**です。 <sup>14</sup>

Perplexity は、4候補の中で最も明確に **企業向け知識探索基盤** として製品化されています。Enterprise は **検索、社内文書検索、Spaces、Connectors、Comet、Computer** を中核に置き、UI では GPT、Claude、Gemini、Sonar など複数モデルを選択できます。Enterprise の “Computer” は、**hundreds of app connectors** を横断して **multi-step workflow** を実行する **digital worker** と位置づけられており、単なる検索で終わらず、一定の自律実行にも踏み込んでいます。さらに Local/Remote MCP を持ち、**Local MCP は最小限のデータのみを Perplexity に送る**設計とされています。つまり Perplexity は、**検索中心でありながら、企業運用で必要な拡張性と統制を最も丁寧に文書化している製品**です。 <sup>15</sup>

flowchart LR

```
U[利用者] --> P[Perplexity Enterprise]
P --> Q[検索・推論オーケストレーション]
Q --> W[Web / Premium sources]
Q --> A[API-based connectors]
Q --> I[Index mode: S3 + Vespa]
A --> C[引用付き回答]
I --> C
W --> C
C --> S[Threads / Spaces / Org Files]
S --> L[Retention / Audit logs / Admin controls]
```

データ処理の公開度は特に高いです。Enterprise データは**学習に使われず**、アップロードファイルは**7日で自動削除**、ただし Thread 自体は削除されません。50席以上または Enterprise Max を含む組織は、**Thread retention** を管理画面から変更でき、古い Thread は即時アクセス不能になったのち **7日以内に物理削除**されます。Memory も Enterprise では **暗号化され、組織管理者が機能自体を無効化すると既存メモリも削除**されます。監査面では、Audit Logs を **HTTPS webhook + Bearer/Custom Authorization header** で SIEM 側へ配送できます。さらに Google Drive、SharePoint、OneDrive の各コネクタについて、**API-based mode** では**ファイルコピーなし、indexed mode** では**選択ファイルだけを AWS S3 と Vespa へ格納し、AES-256/TLS/RBAC** で保護し、**元システムの権限変更は即時反映**するという、かなり詳細なデータフローまで公開されています。 <sup>16</sup>

セキュリティ・プライバシー・運用の観点でも、Enterprise ページと Pricing ページは **SOC 2 Type II、GDPR、HIPAA、PCI DSS、SSO/SCIM、user management、permissioning、dedicated enterprise support** を明記しており、Help Center では Okta、Microsoft <sup>17</sup> Entra、Google Workspace といった IdP 連携、共有制御、外部コネクタ管理、監査ログ、データ保持、Usage Analytics まで揃っています。配備形態は基本的に **SaaS** であり、公開一次資料の範囲ではオンプレや専用VPCは確認できませんが、**API-only connector mode** と Local MCP により、**「最小データコピー」で運用する設計が可能**です。価格は

Enterprise Pro が1席月額34ドル、Enterprise Max が271ドル。したがって、**全社標準としては最も無難で、しかも説明可能性が高い候補**です。 18

Felo AI は、日本語に強い**検索・要約・資料化・エージェント化**を一体で提供する、日本企業にとって理解しやすい候補です。Enterprise ページでは **intelligent search and office automation solution** と位置づけられ、会社概要では Felo Search、Felo Create、Felo Agent、Felo LiveDoc、Felo Enterprise を一連の製品群として示しています。公式会社概要によれば、Felo Search は複数の先端LLMを選択利用でき、Felo Agent は自然言語でカスタムエージェントを作成し、Felo LiveDoc は AI エージェント統合型のビジュアルワークスペースです。さらに API Keys ページと Felo Skills の公式ページから、**Open Platform 用の API key** と、MIT ライセンスで公開された Skills/GitHub/Discord というコミュニティ軸も確認できます。 19

```
flowchart LR
  U[利用者] --> F[Search / Agent / LiveDoc]
  F --> D[Deep Search engine]
  F --> L[複数LLM]
  F --> A[Agent Store / Open Platform]
  D --> S[Web情報 / 内部資料]
  L --> O[レポート / PPT / マインドマップ]
  A --> O
  S --> O
  O --> E[Enterprise管理・ポリシー]
```

データガバナンス面では、**Felo Enterprise Privacy Policy** が日本語で公開されている点が大きいです。このポリシーは APPI ベースで、取得情報として **アカウント情報、プロンプト/アップロードファイル/回答を含むユーザーコンテンツ、コミュニケーション情報** を明示しています。利用目的には **サービス提供・分析・改善・AI開発/改善** が含まれますが、同時に **ユーザーコンテンツは、明示的同意がない限り AI モデル学習データとして使わない** と明記しています。第三者提供は **本人同意、外部サービス連携、緊急・法令対応等** に限定されています。Security ページでは、**TLS 暗号化、ISO 27001 certified data centers in Japan、限定された従業員アクセス、99.5% uptime、内部/外部ペネトレーションテスト** を掲げ、公式広報では **SSO/権限管理・国内AWS運用** を訴求しています。ここは国内企業には響きやすい材料です。 20

ただし、**公開エンタープライズ資料の粒度は Perplexity や Manus より粗い**です。Enterprise 価格は公表されておらず、ページ上は問い合わせ導線中心で、公開できる金額は消費者向け Pro の **月額2,099円** に留まります。SSO 対応は公式ブログで確認できますが、SCIM、監査ログ仕様、組織単位の保持期間、Customer Managed Keys、テナント分離図、第三者監査報告書の公開といった、情報システム部門が稟議で欲しがるエビデンスはまだ薄い。したがって Felo AI は、**日本語中心、国内運用ストーリー重視、まずは市場調査やレポート生成に限定した導入には向きますが、全社標準の第一候補に置くには追加RFIが必要**という評価になります。 21

## 比較表と意思決定マトリクス

まず、4候補を実務観点で圧縮すると、次の比較になります。

ツール	向いている用途	強み	主な懸念	公開価格の見え方	主要根拠
Manus	自律実行、ブラウザ操作、社内タスク自動化、成果物生成	Wide Research、sandbox VM、MCP、API、Compliance APIs、SOC2/ISO	公開オンプレ/VPC不明、管理者可視性の設計確認が必要、SSO追加費用条件あり	Team は 1席月額20ドルから、SSO は30席未満で月額150ドル	22
Genspark	AI workspace、超広範な自動化、AI employee型運用	Mixture-of-Agents、Cloud Computer、Claw、豊富なツール群、Dedicated VPC/Hybrid/On-prem preview	公開資料の認証・保持仕様に不整合、デューデリジェンス負荷が高い	Team は 1席月額30ドル、Enterprise は個別見積もり	23
Perplexity	社内外統合検索、引用付き要約、知識基盤、統制重視の企業導入	SSO/SCIM、監査ログ、保持制御、詳細なコネクタデータフロー、SOC2/GDPR/HIPAA/PCI DSS	公開オンプレ/VPC不明、行動実行力は Manus/Genspark ほどではない	Enterprise Pro 1席月額34ドル、Enterprise Max 271ドル	24
Felo AI	日本語中心の調査、資料生成、国内企業の限定導入	日本語一次資料、APPIベースの Enterpriseポリシー、国内AWS訴求、SSO、公称99.5%稼働率、オープンプラットフォーム	監査・保持・SCIM・認証の公開証跡が薄い、Enterprise価格非公開	Enterprise は要問い合わせ、公開価格は Pro 月額2,099円	25

定量化すると、Perplexity が「説明可能な企業導入」という評価軸で頭一つ抜ける、という結論になります。以下の点数は公開一次資料ベースの分析値であり、機能の絶対値ではなく、情報システム部門が承認しやすいかを重く見えています。Perplexity は統制・保持・データフロー・価格透明性が強く、Manus は実行力で高得点、Felo AI と Genspark は要件依存ですが、Genspark は透明性ペナルティ、Felo AI は公開統制粒度の薄さで伸び切らない、という解釈です。 26

評価軸	重み	Manus	Genspark	Perplexity	Felo AI
セキュリティ・コンプライアンス透明性	30	4.0	2.0	5.0	3.0
データ統制・保持制御	20	3.0	2.0	5.0	3.0
IAM・監査・管理性	15	3.5	3.0	5.0	2.5
統合・拡張性	10	4.0	4.5	4.0	3.0
エージェント実行力	10	5.0	5.0	3.5	3.5
配備柔軟性	5	2.5	4.5	2.5	2.5
価格・サポート透明性	10	3.5	2.5	4.5	2.5
<b>加重総合点</b>	<b>100</b>	<b>3.70</b>	<b>2.90</b>	<b>4.65</b>	<b>3.00</b>

このマトリクスに基づく推奨は、次の一文に集約できます。全社標準を1つ選ぶなら Perplexity。限定された自律実行パイロットを別枠で認めるなら Manus。Felo AI は国内企業向けの限定導入候補。Genspark は最新監査証跡とデータ統制文書の整合確認が終わるまでは本採用を急がない。 27

## セキュリティ・リスク評価

4製品のリスクは、モデルの賢さよりも「どのデータがどこへ流れ、誰が見られ、どこまで自動実行されるか」によって差がつきます。Perplexityはこの点を最も公開文書化しており、API型コネクタはほぼゼロロピー、indexed mode だけが S3/Vespa に載るという線引きが明確です。Genspark は配備選択肢こそ最も多い一方、保持仕様と認証表現の整合確認が必要です。Manus は隔離実行環境と Compliance APIs が強いですが、ローカル端末や外部SaaSに実際に作用する分、権限設計の失敗がそのまま事故に直結します。Felo AI は日本語ポリシーが読みやすい反面、監査・運用統制の公開粒度はまだ薄いです。 28

特に Perplexity のコネクタ設計は、初期導入の手本になります。まず API-based mode を既定にし、どうしても高精度が必要な特定 Space だけ indexed mode を有効化する、という方針を取れば、精度とデータ最小化の両立がしやすいからです。情報システム部門が求めるのは“最強のエージェント”ではなく、事故時に説明できるエージェントであり、その観点で Perplexity は構造的に有利です。 29

リスク	影響の出自	主に影響する製品	可能性	影響度	推奨緩和策	根拠
外部モデル・外部処理先へのデータ送信	機微情報がベンダー外の LLM / サブプロセッサへ渡る	全製品。特に多モデル・多ツール型の Genspark、API/複数プロバイダを使う Perplexity、外部連携が広い Manus	中	高	機密区分を定義し、Phase 1 では秘密情報・人事・法務原本を禁止。DPA と no-training 条項、サブプロセッサ通知条項を契約で固定	30
コネクタ過権限・誤操作	エージェントがメール送信、ファイル更新、予定登録などを誤実行する	Manus、Genspark、Perplexity の Remote Connector	中	高	OAuth 権限の最小化、読み取り専用コネクタ優先、業務アカウント分離、送信系アクションは承認ゲート必須	31
保持期間や削除仕様の不整合	想定より長くデータが残る、削除説明が曖昧になる	Genspark、Felo AI、Manus	中	高	契約書・DPA に保持表と削除SLAを明記。PoC で削除試験を実施	32
監査証跡不足	誰が何を見て何をアップロードしたか追えない	Felo AI、Genspark。Perplexity/Manus は比較的強い	中	中～高	監査ログ/SIEM 連携の有無を必須要件化。Felo と Genspark はRFIでログ項目を確認	33

リスク	影響の仕方	主に影響する製品	可能性	影響度	推奨緩和策	根拠
ハルシネーション・誤引用	それらしく誤る、根拠のない自信を持つ	全製品	高	中～高	人間レビューを前提化。高リスク判断は“提案のみ”で、決裁・送信・登録は人手承認	34
ベンダー変化リスク	組織再編、製品定義変更、急速な機能変更で統制が追いつかない	Manus、Genspark、Felo AI	中	中	変更通知条項、再評価トリガー、四半期レビューを契約運用に組み込む	35

この表を踏まえると、**もっとも重要な緩和策は「高リスク自動実行を初期スコープから外す」**ことです。つまり、最初からメール送信、DB更新、チケット起票、対外共有まで任せない。まずは、**検索、要約、比較、下書き、社内文書探索**に限定し、監査ログと保持設定が回ることを確認してから、段階的に action 権限を足すべきです。これは Perplexity を選ぶ場合にも、Manus や Genspark を将来並行評価する場合にも共通です。

36

## 情報シス承認論点とスライド案

情報システム部門向けの承認論点は、「**なぜこの製品なら、事故時に説明できるのか**」に集約するのが最も通りやすいです。本レポートの推奨文言としては、次の6点が使いやすいです。Perplexity を前提に書いていますが、他候補を評価継続する場合にもそのまま流用できます。Perplexity は SSO/SCIM、監査ログ、保持制御、共有制御、API型/索引型コネクタを持つため、初期統制設計に落とし込みやすいからです。 37

### 1. 導入目的の限定

本件は「社内外知識探索とレポート草案の高速化」を目的とし、初期フェーズでは対外送信・マスタ更新・決済判断などの高リスク自動実行を対象外とする。

### 2. 認証とライフサイクル管理

SSO を必須化し、50席以上または必要時には SCIM を用いて joiner/mover/leaver を自動化する。退職・異動時の権限残存を避ける。 38

### 3. データ最小化方針

コネクタは原則 API-based mode を優先し、indexed mode は特定 Space の curated file に限定する。個人情報・人事・法務原本・顧客機密は Phase 1 の対象外とする。 29

### 4. 保持と削除の統制

Enterprise 側で retention を設定し、検索履歴や Memory は必要最小限にする。不要な共有リンク、添付ファイル、Temporary file を定常的に削除する。 39

### 5. 監査と可視化

Audit Logs を SIEM に送信し、月次で「誰が何を検索/アップロード/共有したか」をレビューする。特に外部共有とコネクタ追加を監査対象に含める。 40

## 6. 将来の自律実行評価は別ワークストリーム

Manus や Genspark のような action-heavy agent は、初回導入とは切り分け、別PoCで権限・誤操作・記録性を検証する。標準採用の判断と混ぜない。 <sup>41</sup>

社内承認用のスライドは、次の流れにすると通しやすいです。

### 1. 背景と問題意識

既存の情報収集・比較・レポート作成にかかる工数と、属人化・探索漏れの課題を示す。

### 2. 候補製品の選定範囲

Manus、Genspark、Perplexity、Felo AI を比較対象にした理由を説明する。

### 3. 評価フレーム

用途、アーキテクチャ、データ取扱い、セキュリティ、配備、統合、価格、サポート、リスクの10軸を示す。

### 4. アーキテクチャ比較

検索中心型と実行中心型の違い、およびデータフローの差を Mermaid 図で示す。

### 5. セキュリティ・ガバナンス比較

SSO/SCIM、監査ログ、保持設定、学習利用禁止、認証状況の差を整理する。

### 6. コストと運用負荷

公開価格、非公開価格、導入後に必要な管理負荷とサポート体制を比較する。

### 7. 意思決定マトリクス

加重スコアと、そのスコアを付けた理由を簡潔に示す。

### 8. 推奨案

標準採用は Perplexity、行動実行型は次段階で Manus を限定評価、という二段階方針を示す。

### 9. 導入ガードレール

対象データ、禁止行為、保持設定、監査連携、承認フローを明文化する。

### 10. 承認依頼事項

PoC 範囲、対象部門、期間、成功指標、契約前確認事項を明示する。

最終的な推奨を一文で言うなら、「企業内標準として一つだけ選ぶなら Perplexity。理由は、公開一次資料の範囲で最もガバナンス説明性が高く、知識業務のROIと情シス承認のバランスが最もよいため」です。もし将来的に“検索”ではなく“実行”を主戦場にするなら、その次の評価対象は Manus にするのが合理的です。 <sup>42</sup>

---

<sup>1</sup> <sup>2</sup> <sup>8</sup> <sup>15</sup> <sup>24</sup> <sup>26</sup> <sup>42</sup> <https://www.perplexity.ai/enterprise>  
<https://www.perplexity.ai/enterprise>

<sup>3</sup> <sup>7</sup> <sup>9</sup> <sup>22</sup> <sup>41</sup> <https://manus.im/blog/manus-wide-research-solve-context-problem>  
<https://manus.im/blog/manus-wide-research-solve-context-problem>

- 4 20 25 <https://felo.ai/enterprise/privacy-policy>  
<https://felo.ai/enterprise/privacy-policy>
- 5 <https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/10352958-what-is-internal-knowledge-search-for-enterprise>  
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/10352958-what-is-internal-knowledge-search-for-enterprise>
- 6 28 29 <https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/13714508-google-drive-connector-file-upload-security>  
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/13714508-google-drive-connector-file-upload-security>
- 10 31 <https://manus.im/docs/integrations/mcp-connectors>  
<https://manus.im/docs/integrations/mcp-connectors>
- 11 <https://manus.im/blog/manus-my-computer-desktop>  
<https://manus.im/blog/manus-my-computer-desktop>
- 12 13 23 32 <https://www.genspark.ai/business>  
<https://www.genspark.ai/business>
- 14 [https://www.genspark.ai/team\\_pricing?from\\_path=%2Fpricing](https://www.genspark.ai/team_pricing?from_path=%2Fpricing)  
[https://www.genspark.ai/team\\_pricing?from\\_path=%2Fpricing](https://www.genspark.ai/team_pricing?from_path=%2Fpricing)
- 16 <https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/11187708-data-retention-and-privacy-for-enterprise-organizations-and-users>  
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/11187708-data-retention-and-privacy-for-enterprise-organizations-and-users>
- 17 35 <https://manus.im/blog/manus-joins-meta-for-next-era-of-innovation>  
<https://manus.im/blog/manus-joins-meta-for-next-era-of-innovation>
- 18 27 <https://www.perplexity.ai/enterprise/pricing>  
<https://www.perplexity.ai/enterprise/pricing>
- 19 <https://felo.ai/ja/enterprise>  
<https://felo.ai/ja/enterprise>
- 21 <https://felo.ai/ja/blog/enterprise-sso-integration/>  
<https://felo.ai/ja/blog/enterprise-sso-integration/>
- 30 <https://www.genspark.ai/policies/enterprise-clients-data-security-and-privacy-policy>  
<https://www.genspark.ai/policies/enterprise-clients-data-security-and-privacy-policy>
- 33 40 <https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/11652747-audit-logs>  
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/11652747-audit-logs>
- 34 <https://docs.perplexity.ai/docs/agent-api/prompt-guide>  
<https://docs.perplexity.ai/docs/agent-api/prompt-guide>
- 36 37 38 <https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/12067853-introduction-to-organization-admins>  
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/12067853-introduction-to-organization-admins>
- 39 <https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/11652701-data-retention-for-enterprise>  
<https://www.perplexity.ai/help-center/en/articles/11652701-data-retention-for-enterprise>